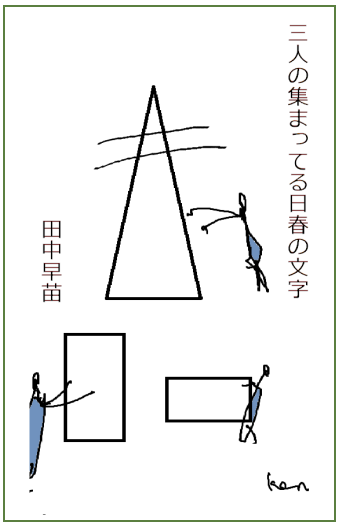
■今月の特選句

2021年5月

デジタルの世に目視の開花宣言

月城花風

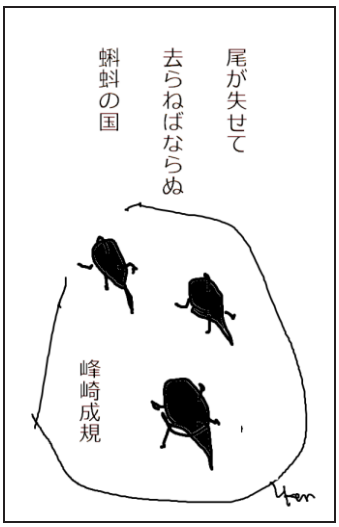
標本木が花をつけたら開花宣言。デジタルの時代に目視で確認とは時代錯誤のように思える。しかし、AIやエビデンスで宣言しちゃあおしまいよ。



三人の集まってる日春の文字

田中早苗

なるほどね。春の文字は三と人で構成されている。漢字は象形文字の組み合わせみたいなもので、その成り立ちを話し出すと姦しいことになる。



尾が失せて去らねばならぬ蝌蚪の国

峰崎成規

オタマジャクシが蛙になる。その時の戸惑いは如何なものだろうか。水の国の外には厳しい自然が待っている。蛙として生きていく覚悟が要るのだ。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

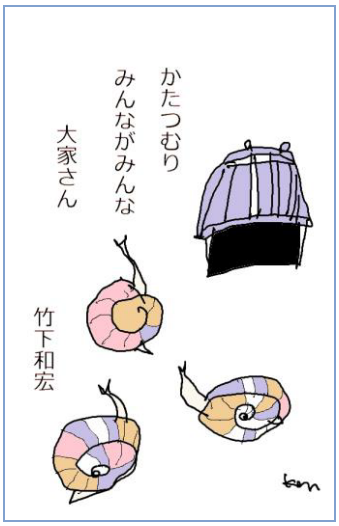
■今月の特選句

2021年5月

人を連れ犬が集まる春の道

桑田愛子

犬を連れて集まるのではなく、人を連れて犬が集まるのだ。この句の滑稽は視点の逆転にある。「犬を連れ人が集まる」では、ただ事だからね。



かたつむりみんながみんな大家さん

竹下和宏

そりゃそうだ。家を失ったら「なめくじ」だからね。安普請ながら一戸建で全員に所有権。「みんながみんな」と羨望しているところが可笑しいね。

燃えるよな恋ご法度や雪女

壽命秀次

雪女に愛を告白しても、期待するような返事は得られない。「燃えるよな恋」をしたら溶けちゃうしね。冷静に凍傷覚悟で付き合うしかないね。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

渚てふ名で出ています春の海　小林英昭
・・・たしか以前は神戸にいたが

肝心な所をぼかし蜃気楼　髙田敏男
・・・想像力でしかと補へ

鴨(ニオ)潜り数え切れずにご破算に　井野ひろみ
・・・願いましてはすぐに潜るな

官僚の記憶喪失四月馬鹿　田村米生
・・・その国民はもつとお馬鹿よ

カピバラのほうとした顔花粉症　谷本　宴
・・・もともとくしやみしさうな顔で

離ればなれに花筏の一家族　吉川正紀子
・・・さあてこれからどこへ行こうか

合格の通知は財産目録か　小笠原満喜恵
・・・卒業までは監視しなくちゃ

赤白は神の計らいチューリップ　柳村光寛
・・・水をやるのは如雨露(ジョウロ)の計らい

あたたかや膝の屈伸すぐ疲れ　山本　賜
・・・無理はおよしよ休み休みに

花は散るゴミの山にも化粧して　長井知則
・・・降る雪にある公平感か

トランペットの音まつすぐや風光る　名本敦子
・・・風も金ピカ音も金ピカ

あちらもこちらも桜満開気が滅入る　日根野聖子
・・・お呼ばれの日の食べすぎ気分

何事ぞ花見る人の黒覆面(マスク)　池田亮二
・・・花に無礼と思わないのか

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

＊今月の特選句･秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

天上に桜の苗木贈ろうか	相原共良
花に風少し離れてみてはどう	相原共良
会ふも別るも涙ながらの万愚節	相原共良
梯子して神頼みする受験生	青木輝子
胎の児にコロナのつけ待つ四月馬鹿	青木輝子
難敵の加齢蹴とばし青きふむ	青木輝子
佐保姫出没桜田門外の辺	赤瀬川至安
三月や犬の火急の丑三つ時	赤瀬川至安
詰め放題今日が期限の桜餅	赤瀬川至安
日に立てば粒の眩しき猫柳	井口夏子
遠足の足並み揃ふ青信号	井口夏子
葉桜や私の出番と艶をます	井口夏子
なにもかもべからず尽しコロナの春	池田亮二
お点前もちとワイン味春なれば	池田亮二
我が家では雑草と見ず犬ふぐり	石塚柚彩
断捨離をしつつ買い足す春の服	石塚柚彩
ビブラート伸ばすアシカの春のショー	石塚柚彩
経済の成長止まりいても春	伊藤浩睦
亀鳴いて寝てる兎を起こしけり	伊藤浩睦
古池の水を抜かれて蛙鳴く	伊藤浩睦
人住まぬ家の静けさ小鳥来る	稲沢進一
風船やいつしか萎む夢ひとつ	稲沢進一
余白無き絵画一枚花の雲	稲沢進一
いかのぼり上昇引力を引き千切り	稲葉純子
鶯のこゑお隣にお裾分け	稲葉純子
大木になれず俎上にのぼり独活	稲葉純子
木瓜の花忘るゝことのなき名前	井野ひろみ
パトカーを横目に盗む寒鴉	上山美穂
フラココで空を見上げるだけの歳	上山美穂
飛花落花飛行機雲に絡みつき	上山美穂
お散歩をやつと許され日焼け止め	梅野光子
嫁ぐ娘(こ)の足袋白ければ赤椿	梅野光子
子育ての鴉はせつせ春の朝	梅野光子
段ボールベッドの寝心地目借時	遠藤真太郎
警察犬はジェンダー分けず八重桜	遠藤真太郎
ロッカーに海の匂いや新社員	遠藤真太郎

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事･写真･イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写･転載等を禁じます。

飛花落花退屈さうに幹のあり	大林和代
たんぽぽは赤くならない踏まれても	大林和代
花片のひとひらごとの光かな	大林和代
都都逸の節がもげてる花見酒	小笠原満喜恵
蒟蒻ががまんしてゐる針供養	小笠原満喜恵
花嫁に花も恥らふ撮影日	岡田廣江
花蜜柑夕べの鼻をくすぐるや	岡田廣江
コロナ禍や子は囀りもできぬまま	岡田廣江
大愚と言え四月馬鹿と言うなかれ	金城正則
春の婚活七十で参加する	金城正則
春来たるなにをしてても楽しくなる	金城正則
フーフーフーWHOエイプリルフール	久我正明
春を消す束子ごしごしひとりごち	久我正明
春の雲ぼけたふりしてぼけている	久我正明
つちふるや波止に波消しブイをどる	工藤泰子
甚五郎の眠り猫似の春の猫	工藤泰子
オリンピックドリーム号の春の航	工藤泰子
春眠に届く朝餉のトントントン	桑田愛子
運転手さんも新しい顔春のバス	桑田愛子
恋猫のしやなりしやなりと凱旋門	小林英昭
スナップの隅にちやつかり写る春	小林英昭
オンラインハイカラ婆の春炬燵	壽命秀次
擦れ違ふ春風を切る人力車	壽命秀次
かたくなに守る巣ごもり春眠す	白井道義
テレワーク終りごろりと春炬燵	白井道義
「以下同文」横一線に卒業す	白井道義
入学のチャイムの音色さくら色	鈴鹿洋子
疫病の薄ら笑いや花篝	鈴鹿洋子
夕飯は餃子と決めて日向ぼこ	鈴木和枝
基地を選んだつくしの二三本	鈴木和枝
雀ら来て二月の畑耕してゆく	鈴木和枝
顔合せみんなマスクで新社員	髙田敏男
うそ一つ真面（まとも）に聞こえ万愚節	髙田敏男
何とまあおまけの金魚だけ育ち	竹下和宏
青二才その青競ふ今年竹	竹下和宏
うに好きの語る百円寿司のうに	龍田珠美
春の月クレープまちの四番札	龍田珠美
満開の桜俊足三輪車	龍田珠美

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

愛らしく顔のぞかせる土筆かな	田中　勇
旅人の春山巡り語りけり	田中　勇
春の山聖地の巨石に魅せられて	田中　勇
梅の宮英字の絵馬のちらほらと	田中早苗
煮てくれし土筆の旨し嫁さんの	田中早苗
卒業や第二ボタンが欲しかった	谷本　宴
今日なんかシャンソン気分春なかば	谷本　宴
ブローチの合ふ服だけを更衣	田村米生
目借時免許更新脱輪す	田村米生
囀りは入場制限されません	月城花風
靴形のマークが誘導申告期	月城花風
メールより手書きが一番落し文	土屋泰山
花吹雪窓からながむ顔と顔	土屋泰山
春愁や耳に栓するわが人事	土屋泰山
ペア密で三密の花訪ねけり	飛田正勝
花を呑み水面動かぬ心字池	飛田正勝
四月馬鹿擬陽性だと振れ回る	飛田正勝
母の日の亡母(はは)に感謝の二文字かな	長井知則
合格の歓び薄れ二年生	長井知則
亀鳴くやまだまだ生きるつもりなる	名本敦子
蝶を追ふ子らお揃ひのスニーカー	名本敦子
三月の十一日のカレンダー	西をさむ
こうしては居れぬと騒ぐ杉花粉	西をさむ
菅笠を被る倅の渡世かな	西をさむ
対岸とにらめっこして山笑う	花岡直樹
桜咲く城にも道後にも石手にも	花岡直樹
ビアの泡桜真似して咲き急ぐ	花岡直樹
桜通りマスク通りと相成りぬ	久松久子
薄氷の校門までの命なり	久松久子
初蝶の杖よろめかす力あり	久松久子
美しき汚れてふもの春の泥	日根野聖子
花見弁当ちようだいと来る鳩すずめ	日根野聖子
窓を開けるは幕上がること百科繚乱	廣田弘子
許されぬ嘘もありけり四月馬鹿	廣田弘子
黄砂降る青き地球を霞めむと	廣田弘子
ごみ捨ててストレス捨てる大掃除	藤森荘吉
ピカソ的整理整頓大掃除	藤森荘吉
大掃除人生費用対効果	藤森荘吉

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

春昼やコロナ疲れの生欠伸	細川岩男
休肝日早寝と決めた春の夜	細川岩男
春空よコロナは何処の何方さま	細川岩男
ウィンウィンと言うて舌出す万愚説	峰崎成規
表彰盾あのときめきへ春埃	峰崎成規
馬珂貝(ばか)の舌触れたばかりに馬鹿のまま	椋本望生
諍ひの火種は奇数鳥の恋	椋本望生
春日遅々ながら歩きと言ふおまけ	椋本望生
春の朝母子が悩むタイ結び	向田将央
「おかえり」と駆けて来る子に桜餅	向田将央
お先にどうぞ遅春のウォーキング	向田将央
光秀の三日天下や桜咲く	村松道夫
先駆けも落ちこぼれなき辛夷咲く	村松道夫
啓蟄やもぐら叩きの女の子	村松道夫
花菜茹で若き日のかくほろ苦き	百千草
犬くしゃみして満天星の花零す	百千草
生きてゆく桜の別れ繰り返し	百千草
てんとう虫となりの星を数へをり	森岡香代子
さくらにも事情のあれば散り急ぐ	森岡香代子
おませの子お口閉ぢればお雛様	森岡香代子
花の雨花散ることと誤解され	八木　健
黄緑に混色あらず柿若葉	八木　健
初蝶を見たよと秘密めいた声	八木　健
朗らかに卯月生まれの子が笑う	八塚一青
鹿の子のどれが親だか分からない	八塚一青
妖精がくれば完璧なる泉	八塚一青
振袖は脱皮の証し成人日	柳　紅生
花むしろ風の抑へにヨガの脚	柳　紅生
荒れ果てた畑蚯蚓が相続す	柳　紅生
届きしは大好物の桜餅	柳澤京子
桜舞う小鳥おしゃべり雨上がり	柳澤京子
散歩道犬は尿かけいぬふぐり	柳澤京子
桜鯛一魚一会となりにけり	柳村光寛
牧谿の水墨画のごとつちふれり	柳村光寛
お料理の動画観ている夜半の春	山内 更
採れたての蕨炊くのはIH	山内 更
四月馬鹿現実のほうが嘘みたい	山内 更

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

落ちている俳句の欠片を探す春	山岡純子
春光や仁淀ブルーの澄みわたる	山岡純子
菜の花を横切る列車ウキウキと	山岡純子
散りてなお踏まれて淡き桜かな	山下正純
花桃のぼんぼりほんのりこんもりと	山下正純
八重の手や乙女椿の心抱く	山下正純
ストライク音はミットに風光る	山田真佐子
春のファッションマネキンが歩き出す	山田真佐子
春愁かひと日無気力なる私	山田真佐子
春雷や今日の日付をメモっとく	山本　賜
巾があり甘みがあって韮のこと	山本　賜
夢にみる夢のごときに春の夢	山家志津代
比良八荒今さら義母の秘密なぞ	山家志津代
さくら時あしかろがろとあがりけり	山家志津代
花の土手不要不急の散歩道	横山洋子
錠剤はツートンカラー春の昼	横山洋子
四月尽吾子らの部屋のがらんどう	横山洋子
句の花を机上に活けて春朧	吉川正紀子
咲いて散るまでを見られず山桜	吉川正紀子
密を避け木陰は涼しちと淋し	吉原瑞雲
生え抜きは春あやふやに答弁し	吉原瑞雲
貧しくも花があったねあの頃は	吉原瑞雲
たんぽぽのすくすく絮の透き通る	渡部美香
ふらここの離陸の機体蹴つ飛ばす	渡部美香
ため息をいつぱいためて朧月	渡部美香
ドンペリの接待受けし闇の春	和田のり子
バックしますバックしますと春埃	和田のり子
佐保姫の襟足乱す風強し	和田のり子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。